

平成 24 年度第 1 回美濃市地域公共交通会議

(会議録)

○会議の日時及び場所

日時

平成 24 年 8 月 21 日 (火) 午後 1 時 00 分

場所

美濃市防災中央コミュニティセンター 2 階大会議室

○出席した委員及び説明のために出席した者の職、氏名

出席した委員

美濃市長 石川 道政

委員 17 名 (別紙のとおり)

委員 4 名欠席

説明のために出席した者の職、氏名

美濃市総務部長	梅村 健	(事務局)
美濃市建設部長	丸茂 勝	(市関係部署)
美濃市総務部総合政策課 課長	島田 利克	(事務局)
美濃市総務部総合政策課 課長補佐兼企画調整係長	井上 博司	(事務局)
美濃市総務部総合政策課 主任	篠田 啓介	(事務局)

合計 23 名

○議事の件名及び経過の要点

交通会議次第

1. 開会あいさつ

2. 会長あいさつ

3. 議 事

議第 1 号

美濃市予約運行型(デマンド)乗り合わせタクシー交通試験運行(案)について

… 資料 1 資料 2 資料 3

4. 報告事項

(1) 美濃市地域公共交通計画策定調査について 資料 4

(2) 郡上市「美並美濃線」の美濃市乗り入れについて 資料 5

5. 閉会

交通会議の概要

午後1時00分

事務局の島田総合政策課長の進行で開会

1. 事務局が開会あいさつ

2. 会長あいさつ

- ・美濃市長

<石川会長が議事を進める>

3. 議 事

議第1号について、事務局から一括して説明する。

議第1号

美濃市予約運行型(デマンド)乗り合わせタクシー交通試験運行(案)について

… 資料1 資料2 資料3

- ・資料1により、事務局から美濃市予約運行型(デマンド)乗り合わせタクシー交通試験運行(案)について説明する。
- ・資料2により最近5年間の市内を運行するバスの利用者数の状況を説明する。
- ・資料3により第2回市民懇談会結果について説明する。
- ・試験運行に伴い、自主運行バス「わっちも乗るCar」の一部路線(牧谷御手洗線、牧谷上野線、牧谷片知線、洲原線、富野線)の廃止について説明する。

<各委員からの意見>

岐阜バス武藤取締役：100円11枚つづりだとバスチケットは余ってしまうので現金と併用できるのか？300円の券を作ったらどうか？

事務局：現金との併用はできる。300円券については圧倒的に高齢者(100円)の利用者が多いと思われるので、動向をみながら検討していきたい。

伊澤ボランティア連絡協議会会長：試験運行を実施して、終了してすぐに本格運行するのか？

事務局：試験運行しながら1か月毎に検証しながら進めていきたいと考えている。根本的に合致しないということであれば予定も変えていく。

伊澤ボランティア連絡協議会会長：区域外は行けないのか？

事務局：わっちも乗るCarの代替であるので、試験運行期間は運行ルールに基づいた運行しかできない。要望が多ければ検討していく。

伊澤ボランティア連絡協議会会長：4月1日以降はどこでも行けるのか？

事務局：乗り継いでいけばどこでも行ける。要望があれば、直接上牧地域から洲原地域に行くなども検討していく。

伊澤ボランティア連絡協議会会長：要望があれば、変わるのであればそれを最初から言うておかないと要望は出ないのでは？

事務局：検討する

倉内岐阜大学教授：確認したいのだが、4月以降は実証運行と同じパターンで他の地域へ拡大していくことか？

事務局：そのとおり。

倉内岐阜大学教授：わっちも乗る Car の回数券の併用は出来るのか？

事務局：発行主体が違うので、検討する。

倉内岐阜大学教授：予約の段階で乗り継ぎ予約できるのか？

事務局：乗り継ぎも出来るように考える。

岐阜運輸支局伊藤専門官：地域間移動は乗り継ぎが必要であるということは利用者にとっては一手間かかってしまうが、どこにでも行けるということはいいことではある反面、既存タクシー事業者と競合してしまう。ネットワーク全体のことも考えて議論していただきたい。

伊澤ボランティア連絡協議会会長：デマンドはどこでも行けるという感覚があった。それよりもハブ方式がいいと意見した。今回の方式はハブ方式ではないか。

岐阜運輸支局伊藤専門官：一口にデマンドと言ってもいろいろな方式がある。地域の状況に合わせていただいたほうがいい。

岐阜国道事務所石原所長：経路が決まっていないということであれば特には意見は無い。今出ている(乗り継ぎの方法等)意見の方が重要に思う。

関警察署小路課長：乗降場所について、事故が起きないようにしてほしい。

岐阜県公共交通課増田主査：最近デマンドが増えてきている。県としては広域について考えている。説明にもあった岐阜バスや長良川鉄道との結節し乗り継ぎが出来るようにしてもらいたい。

岐阜バス武藤取締役：美濃市全体を考えた時に利用者に不利にならないような交通を考えていただきたい。

県バス協会山田専務理事：出発する時間位は決めたほうがいいのでは？毎時 00 分とか毎時 30 分とか。配車する方も大変ではないか？1回の予約人数 4 人とするのはおかしい。ダイヤを決めれば決めなくてもいい。病院輸送や買い物利用が不便ではいけないと思う。

事務局：半定時については検討した。美濃市の地形などを勘案した結果、時刻を決めずに運行することとした。人数については中型タクシー車両であれば乗れる人数の最大 4 人で決め

た。

県バス協会山田専務理事：福祉タクシーと一般の路線は分けて考えたほうがいい。

岐阜バス労働組合三ツ村執行委員長：デマンドを地域のみなさんに便利に乗っていただくように説明をしっかりと行ってほしい。

県タクシー協会長瀬取締役：いざやるとなると不安なところもあるが、しっかりしたシステムがあれば、そんなに高いハードルではないと思う。乗務員もこのルールを理解しなければならないと思う。

事務局：業界としてこの方式は受け入れも出来ますか？

県タクシー協会長瀬取締役：可能だと思う。

長良川鉄道坂本専務取締役：和紙会館に行きたい話がよくある。美濃市駅から乗り換えなければいけないのか？

事務局：乗り換えずにいける。

美濃市校長会古田校長：小中学生は乗らないと思う。現在のわっちも乗る Car も乗らないことになっている。高校生の登下校の時間にも合わない。朝晩の定期バスが運行されれば問題ないと思う。

事務局：親と一緒に乗ることも考えられるが、子供だけの利用については教育委員会と協議していきたい。

観光協会旦那副会長：観光客への利用の仕方の PR を駅だけでなく、スーパーなどにもしていったほうがいい。今までのわっちも乗る Car よりもはるかに使いやすく便利になるのではないか。慣れてくると予約外の場所で下してくれ等もあり、事故などが懸念される。また、障がい者の方は自宅まで迎えに行ってしまうようなケースがあるのでは？

事務局：ルールはルールであり、決められた乗降場所で乗り降りするように運行事業者に話をしていく必要があると考える。障がい者についても一人でもお出かけできるようにしていきたい。それでもバス停に来れない方は福祉タクシーや一般タクシーを使っていたきたい。

商工会議所女性会深和会長：乗降場所がわっちも乗る Car のバス停では遠い。もっと増やしてほしい。

事務局：自治会にバス停の増加について希望を聞くところである。

山腰社会福祉協議会会長：年齢の証明がいるのか？みのりの家通所者も乗れるのか？そういう方が乗れば非常にいいと、期待している。

事務局：年齢確認をその都度はしない。どなたでも乗れる。障がい者については手帳の提示を求める場合もあると思う。

山腰社会福祉協議会会長：観光需要も見込まれ、大きく役立つと思う。

藤田連合自治会長：自治会として全面的にこの案で賛成している。新しいことはいろいろな

ことで問題が出てくるが、それはその都度修正していったらいい。試行後にいろいろな問題が出てきても自治会も協力していきたいと思っている。

議長：ありがとうございました。ここで皆様の賛否を取りたいと思う。拍手多数でこの試行案については可決していきたいと思います。

○ここで、会長が議事について、美濃市地域公共交通会議としての合意の採決を行う。

○議事の議第1号美濃市予約運行型(デマンド)乗り合わせタクシー交通試験運行(案)については、出席委員の拍手により、全会一致で合意される。

○美濃市地域公共交通会議で合意された事項については、今後の実施に向けて諸手続きを進めさせていただくこととする。

4. 報告事項

(1) 美濃市地域公共交通計画策定調査について 資料4
調査の概要について説明する。

(2) 郡上市「美並美濃線」の美濃市乗り入れについて 資料5
美並美濃線の本格運行について説明する。

5. その他

バス停の増設について今後各自治会に要望を問い合わせ集約していく。

午後2時35分 閉会